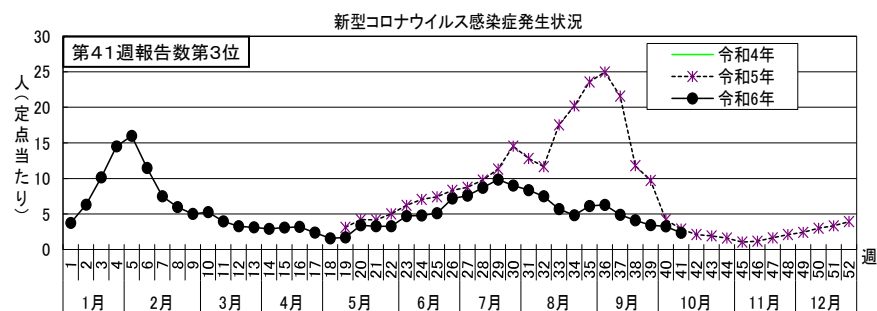
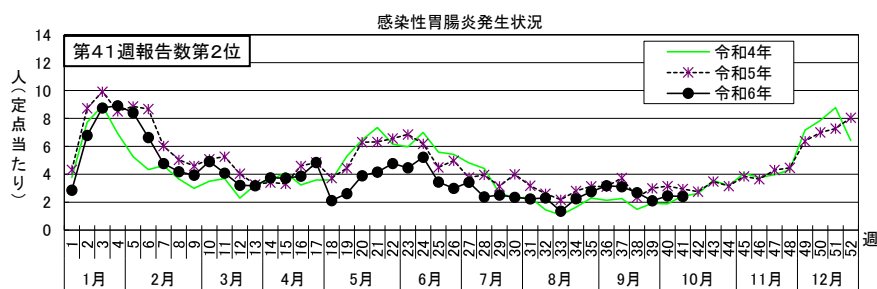
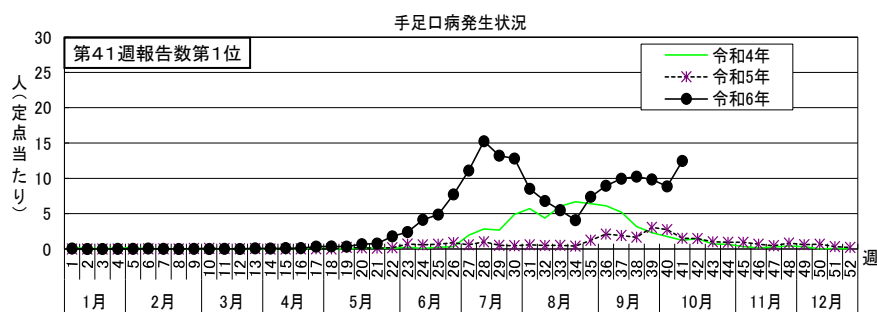


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年10月7日（月）～令和6年10月13日（日）〔令和6年第41週〕の感染症発生状況

第41週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）手足口病 2）感染性胃腸炎 3）新型コロナウイルス感染症でした。
手足口病の定点当たり患者報告数は12.49人と前週（8.86人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.41人と前週（2.46人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は2.36人と前週（3.26人）から減少しました。

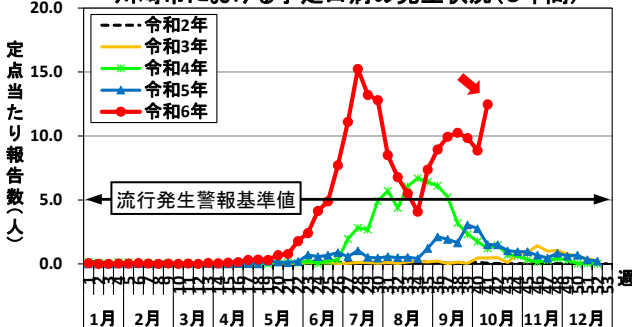


手足口病～報告数が再び大きく増加しています！～

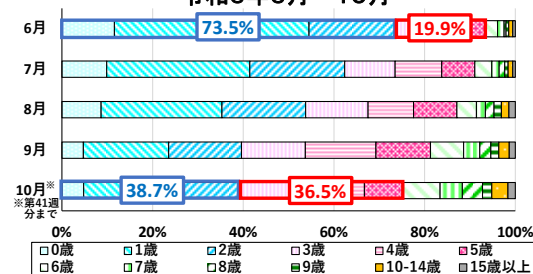
手足口病はコクサッキーウイルスを主な原因とする感染症で、口の中や手足等に水疱を伴う発しんがみられます。川崎市では、令和6年7月に流行のピークとなった後、報告数は一旦減少したものの、流行は終息することなく、第41週（10月7日～13日）には定点当たり12.49人と、再び大きく増加しました。また、6月時点で73.5%と半数以上を占めていた2歳以下の割合が、10月には38.7%と減少しました。一方、3～5歳の割合は、6月には19.9%でしたが、10月は36.5%と大幅に増加しました。

手足口病は、接触や飛沫による感染のリスクが高いため、保育園等の集団施設では、手洗いやタオルの共用は避ける等の予防対策を徹底しましょう。

川崎市における手足口病の発生状況（5年間）



川崎市における手足口病の月別年齢別発生状況 —令和6年6月～10月—



手足口病の予防対策

